Ⅲ

安　心

1 防災防犯

①防災・減災対策の推進
②防犯・交通安全対策の推進
③消費者行政の推進
④消防力の向上

2 環　境

①環境への負荷が少ない持続可能な社会づくり
②鳥獣被害対策の推進
③豊かな自然環境の保全
④快適な住環境づくり

3 生活基盤

①道路の維持管理・整備
②土地の計画的な利用
③公園の維持管理・整備
④上・下水道の維持管理・整備
⑤公共交通の充実

Ⅲ 安　心

① 防災防犯　① 防災・減災対策の推進

● SDGsとの主な関係性

● めざすべき姿

防災対策を日々の業務や生活と一体のものと考える「防災の日常化」の概念の定着を図る中で、町や関係機関、事業者、町民等、それぞれが各々の責務、役割を自覚し、災害を「我が事」と考える地域づくりをめざします。「自助」「共助」「公助」、それぞれの強化・活性化を図り、実践的な防災体制の構築と地域全体の防災・減災力の向上をめざします。

● 施策における現状と課題

現　状 ❶	課　題 ❶
近い将来発生が懸念される南海トラフ地震や、年々激しさを増す水害等から町民の生命・財産を守るため、全庁的な訓練や研修を継続的に実施しています。	南海トラフ地震の新被害想定等、変化する情勢に合わせた新たな知見を庁内で共有し、平時から災害時を想定して業務を進める体制作りを加速させる必要があります。

現　状 ❷	課　題 ❷
防災行政無線のデジタル化と老朽機器の更新に伴い、戸別受信機に変わる、時代に合った新たな情報発信への転換を進めています。	情報発信・受信の手段が多様化する中、財政負担を抑えつつ、確実かつ広範に緊急情報を伝える手段の検討を行い、現行電波の停止までに浸透させる必要があります。

現　状 ❸	課　題 ❸
明和町耐震改修促進計画に基づき、木造住宅の耐震化を図っています。	国が目標としている耐震化率に達しておらず、推進の強化が必要です。

現　状 ❹	課　題 ❹
災害時の避難路確保のため、避難路等に面するブロック塀の除去に対し補助金制度を設けています。	すべての避難路等に面する危険なブロック塀の把握や解消には至っていません。また、所有者が不明又は不存在である建築物が増加しており、対策を検討する必要があります。

現　状 ❺	課　題 ❺
公助に頼らない地域の実現を目指し、自助・共助の意識を醸成し、地域防災の担い手を育成することを通して、地域における自主防災活動の充実を図っています。	地域のつながりの希薄化とともに、自主的な防災の取り組みに格差が表れていると思われます。 より多様な水準・内容での啓発事業等が求められています。

● 課題に対する今後の方向性

・全庁的な防災訓練・研修だけでなく、所属ごとの課題にあわせた小規模な訓練の実施を目指します。

・財政負担は最低限としつつ、適した情報発信手段を検討し、十分な周知や説明を行っていきます。

・住宅の耐震化、家具の固定、ブロック塀の除去等について、補助金等により支援していくことで、減災防災に努めます。

・全町的に一定の課題に取り組む地域防災懇談会を基軸としつつ、地域・団体ごとの課題に寄り添った防災講話や指導の機会を増やしていきます。

● 目標に対する状況を示す指数（KPI）

指　標	現　状	目　標(2030年)
木造住宅耐震補強工事補助件数	１件（令和７年度）	５件（５年間）
ブロック塀等除去改修補助件数	６件（令和７年度）	５０件（５年間）
自主防災組織率（世帯ベース）	７６．３５％	８５％ （令和 12 年度末時点）
自治会・学校・各種団体等を対象とした防災講話・指導等の実施回数	２０回（令和６年度実績）	１２０回（５年間）

Ⅲ 安　心

① 防災防犯　2.防犯・交通安全対策の推進

● SDGsとの主な関係性

● めざすべき姿

町民の安心安全な暮らしを守るため、防犯対策並びに交通安全対策を推進します。啓発や注意喚起を中心とした広報活動を実施すると共に、関係機関や自主団体との連携強化を図り、町全体で防犯・交通安全意識の醸成に努め、犯罪・事故のない、安心安全な暮らしやすいまちづくりをめざします。

● 施策における現状と課題

現　状 ❶	課　題 ❶
防犯意識の啓発に取り組んでいる。	特殊詐欺等の被害が増加傾向にある。

現　状 ❷	課　題 ❷
自治会、自主防犯パトロール等による防犯活動を実施している。	依然として町内の犯罪被害は発生している。

現　状 ❸	課　題 ❸
交通安全の朝の統一街頭指導を実施している。	住民の参画が減少傾向にある。

現　状 ❹	課　題 ❹
交通安全教室の実施に取り組んでいる。	交通事故の件数は減少していない。

● 課題に対する今後の方向性

・特殊詐欺防止に関する条例の制定により、地域が一体となって特殊詐欺の被害防止に取り組みます。

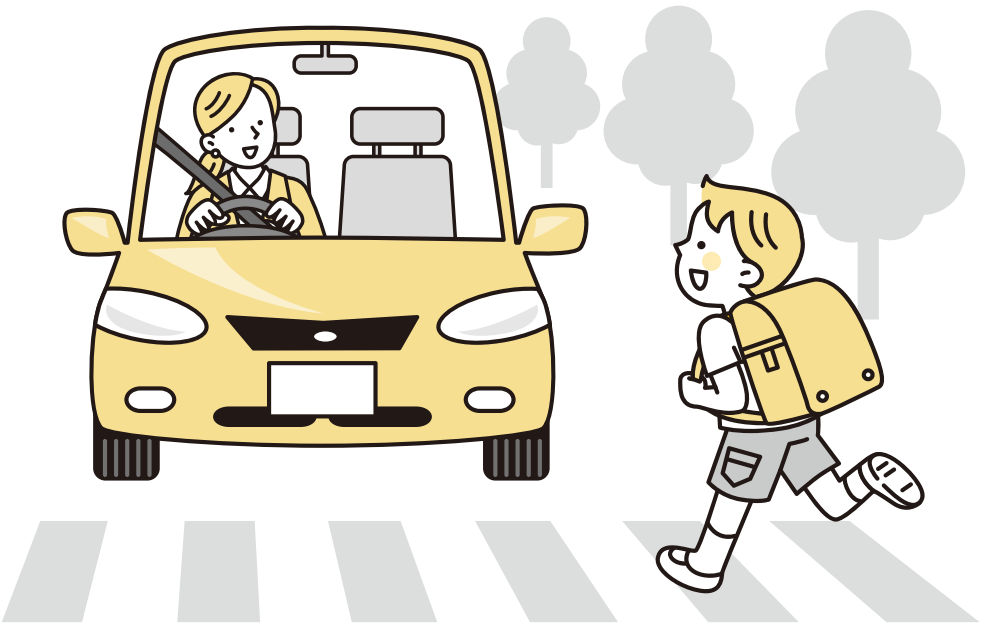
・引き続き自主防犯パトロールを実施するとともに、防犯灯等の防犯施設整備を推進します。

・交通安全協会や PTA との連携を強化します。

・警察等関係機関と連携し、交通安全啓発や防犯対策を強化します。

● 目標に対する状況を示す指数（KPI）

指　標	現　状	目　標（2030年）
防犯パトロールの出動回数 （累計）	７５回	９０回
交通安全教室の実施回数 （累計）	２２回	３５回



Ⅲ 安　心

① 防災防犯　3. 消費者行政の推進

● SDGsとの主な関係性

● めざすべき姿

住民の消費生活に関する悩みごと等に対応するため、消費者相談窓口を設置し、緊急の相談には三重県消費生活センター等関係機関と連携し、迅速に対応できる体制を整備します。

また、情報提供については、消費トラブルに関するチラシの配布、町ホームページや広報紙、防災行政無線など十分な周知啓発を実施します。

● 施策における現状と課題

現　状 ❶	課　題 ❶
契約書内容など従来のトラブルから、新たな　形のトラブルに推移している。	新しい形のトラブルに対応しきれないケースがある。

● 課題に対する今後の方向性

・研修等を通じて、対応する職員の知識向上を図ります。

・消費トラブルに関する啓発活動・注意喚起などの充実を図ります。

● 目標に対する状況を示す指数（KPI）

指　標	現　状	目　標（2030年）
啓発活動・注意喚起の実施	3回	6回

Ⅲ 安　心

① 防災防犯　4. 消防力の向上

● SDGsとの主な関係性

● めざすべき姿

発生が想定される大規模災害に対応するため、消防力の向上が必要です。常備消防を、一部事務組合を構成することにより整備している明和町では、常備消防との連携の上で、消防団が防災上の大きな役割を担っています。

地域のつながりの希薄化や生活スタイルの多様化が進む中、数に頼らない新しい時代に合った消防団の体制を実現すること、地域と連携し、地域全体の防災力向上に寄与する消防団を実現すること、水利・施設・装備の更新と向上を実現することを軸に、地域防災の担い手たる消防団を目指します。

● 施策における現状と課題

現　状 ❶	課　題 ❶
消火栓を基軸とする消火水利は一定充実しており、基準を満たさない空白地の把握・確認を継続的に行っています。	消火栓は断水とともに使用できなくなるため、地震災害の後も活用できる水利の把握・整備が課題となっています。

現　状 ❷	課　題 ❷
地域のつながりの希薄化や高齢化とともに、全国的に消防団員は減少傾向にあります。	今後避けられない団員の減少を想定し、早期に消防団を再編し、人数に頼らない効率的な組織体制を実現する必要があります。

現　状 ❸	課　題 ❸
消防団が使用する消防施設・設備は老朽化が進んでいます。	消防団再編と合わせて消防施設・設備の統廃合等により財政負担を軽減し、施設の更新や新たな設備の導入を目指します。

現　状 ❹	課　題 ❹
消防団は、災害対応だけでなく地域への防災指導を行うなど、火災・自然災害に対するの防災啓発も担っています。	新入団員確保につなげる意味でも、消防団と地域がより良好な関係を築くため、さらに積極的に地域との連携を深める必要があります。

● 課題に対する今後の方向性

・自然水利・既存水利の活用に加え、耐震性貯水槽等の水利新設の検討を行います。

・消防団員が活動しやすく、地域住民にとっても安心できる消防団組織を実現するため、関係者の意見を聴取しつつ、小人数でも効率的に活動できる消防団の再編を進めます。

・消防団再編に合わせ、より安全かつ効果的な施設・設備の配置を目指し、居住実態や災害想定に合わせた配置を図ります。

・町職員による防災講話や指導の事業に加え、消防団員が積極的に地域の訓練指導や啓発事業に参画することを進めていきます。

● 目標に対する状況を示す指数（KPI）

指　標	現　状	目　標（2030年）
防消防団欠員数 （定数－実員数）	２０人 （令和７年10月１日）	０人 （令和12年４月１日）

Ⅲ 安　心

② 環　境

1. 環境への負荷が少ない持続可能な社会づくり

● SDGsとの主な関係性

● めざすべき姿

住民の分別意識が高く、環境美化協力員や警察、地域住民と連携し、不法投棄が無いまちを目指します。
また、ゴミの収集が止まる事のない体制を維持します。明和町地球温暖化対策実行計画に基づき、脱炭素化をすすめ、温室効果ガスの実質排出量がゼロとなるカーボンニュートラルな社会を目指します。

● 施策における現状と課題

現　状 ❶	課　題 ❶
不法投棄の監視指導を行う環境美化協力員の会議及び不法投棄現場の確認を行っています。	協力員の高齢化などが進む中、新たな協力員の登録者数を増やすなどし、不法投棄防止の体制維持が必要です。

現　状 ❷	課　題 ❷
ゴミの収集体制維持のため、令和６年度よりプラスチック類、令和７年度よりビンガラス陶磁器の委託手続きを行いました。	清掃センターの職員の定年退職などが見込まれます。引き続き、他品目の業務委託を検討することで、より強固な収集体制を維持する事が必要です。

現　状 ❸	課　題 ❸
明和町地球温暖化対策実行計画（区域施策編・事務事業編）（令和７年３月改定）の計画期間にあり、事業所における脱炭素化の取り組みや住民への啓発などを行っています。	計画に沿った取り組みが行われているかを毎年確認し、適宜更新する事が必要です。 また、住民や事業所の脱炭素化に対する意識を向上することが必要です。

● 課題に対する今後の方向性

・ゴミ収集・運搬業務体制は、清掃センター職員の定年退職により徐々に減っていく中、収集業務の質を落とさない体制の維持と運営が必要となります。そのため、効率的な収集体制を前提として、経済性や危機管理面を考慮した中で、業務をスムーズに移行できるよう委託を検討します。特に危機管理面では有事に対応できるよう複数の業者による体制を検討します。

・不法投棄対策は、早期発見・早期対応が重要であることから、環境美化協力員制度の周知及び協力員の募集を広報等で行い、住民の方々に協力を呼びかけていくことで、不法投棄の発見・通報体制や指導体制について引き続き推進をしていきます。

・ゴミの減量化は、各家庭において生ゴミの「水切り」や適切な分別によるリサイクル率の向上が有効であるため、各自治会等の団体や各学校の小学生に向けてゴミ減量化講習会を開催することや、イベント等での啓発活動などでゴミの減量化を推進します。また、ゴミの減量化は温室効果ガス排出量の削減にもつながります。

・温室効果ガス排出量の実質排出量ゼロを目指す中、既存のアプリケーションなどを各イベントや広報活動をもって周知し、見える化が難しい各家庭での脱炭素の取り組みや各事業所の取り組みを見えるようにします。また、周知活動に付随して脱炭素に関する意識の変化、向上を図ります。

● 目標に対する状況を示す指数（KPI）

指　標	現　状	目　標（2030年）
ゴミ排出量の抑制	６，７５８トン （令和６年度）	６，４２７トン
温室効果ガス排出量 （BAU 推計）	１３２，１３１t-CO_2 （令和２年度 BAU 推計量）	７７，５０９t-CO_2

Ⅲ 安　心

② 環　境　2．鳥獣被害対策の推進

● SDGsとの主な関係性

● めざすべき姿

野生鳥獣被害に対応するため、住民・猟友会をはじめとする地域関係者が一体となった被害対策の取組を支援します。

● 施策における現状と課題

現　状 ❶	課　題 ❶
町内全域において、カラス、カモ等の鳥類や、アライグマ、イタチ等の中型獣類による農作物被害が多発しています。 また、南部丘陵地域、大仏山周辺地域の町南部地域においては、イノシシによる被害も多発しており、捕獲、侵入防止柵の設置等による被害の発生・拡大を防止する必要があります。	鳥獣被害の捕獲を担う狩猟免許の保持者は、高齢化等により年々減少しており、新たな狩猟者の確保が課題です。また、緊急銃猟の対応についても検討していく必要があります。

● 課題に対する今後の方向性

・国・県などの支援を活用し、有害鳥獣の捕獲、侵入防止柵の設置等の被害防止対策の取組を推進します。
鳥獣の捕獲については、狩猟免許の取得支援等により狩猟者を確保・育成しながら捕獲の推進を図ります。
また、他の被害防止対策として、地域の実情に応じて侵入防止柵の設置や、設置した防止柵の適正管理など「地域ぐるみの被害防止活動」となるよう体制づくりを促進します。

● 目標に対する状況を示す指数（KPI）

指　標	現　状	目　標（2030年）
新規狩猟免許取得者数	5名 （令和3～6年度累計）	8名 （令和3～12年度累計）

Ⅲ 安　心

② 環　境　｜　3. 豊かな自然環境の保全

● SDGsとの主な関係性

● めざすべき姿

住民団体、関係機関と共に、祓川の環境河畔林の樹木管理や地域住民が祓川の希少な魚類をはじめとする豊かな自然に触れる体験の場が維持、確保できており、一人ひとりが自然環境保全の重要性を認識している持続可能な環境共生型の地域を目指します。

● 施策における現状と課題

現　状 ❶	課　題 ❶
ＮＰＯや自治会などと協働し、河川等の清掃活動を実施しています。	河川等の清掃活動を継続する体制を作る必要があります。

現　状 ❷	課　題 ❷
調査内容や場所、日時の選定については町民の要望に対応できるよう適宜見直しながら、環境現況調査を行っています。	引き続き調査内容や場所などは適宜見直しを行い、環境問題の早期発見、解決を行います。

● 課題に対する今後の方向性

・祓川環境美化推進協議会などの住民団体や関係機関と連携し、環境保全活動や清掃活動の取り組みを今後も継続していきます。

・環境現況調査は、環境保全の基礎資料を得ることを目的とし、本町の環境を監視するため継続して実施する必要があります。健全な環境の中で生活が営むことができるよう、大気・水質について引き続き実施するとともに、採取場所や回数も実情に応じて検討します。また、臭気などについては、町民からの要望に対応できるよう、改善に向けての検査などを実施していきます。

● 目標に対する状況を示す指数（KPI）

指　標	現　状	目　標（2030年）
住民団体と関係機関による環境保全活動の回数	3回 （令和６年度）	5回

Ⅲ 安　心

② 環　境　4. 快適な居住環境づくり

● SDGsとの主な関係性

● めざすべき姿

空き家問題が深刻化する中、管理不全な空き家等については、発生を未然に防ぐ取組みを強化するとともに、助言や指導等を行い適正な管理を促すことで住民の安全で安心な生活環境を守っていきます。

利用可能な空き家については、空き家バンクなどの制度を活用し、支援と対策を行います。所有者が不存在などで放置され、周辺住民への被害がある場合は町による措置を実施することで居住環境の保全に努めます。また公営住宅の適正な維持管理を行い、生活困窮者に低廉な家賃で住居を供給します。

● 施策における現状と課題

現　状 ❶	課　題 ❶
過疎化や少子高齢化などが進み、空き家が増加しています。	発生抑制の取組みを強化する必要があります。

現　状 ❷	課　題 ❷
空家等対策計画に基づき、空き家対策を推進しています。	計画に基づく多様な空き家対策を行う必要があり、県や民間団体との連携が必要です。

現　状 ❸	課　題 ❸
町の空き家バンクサイトを作成し、利用を推進している。	バンク登録件数を増加させるための取組みを強化する必要があります。

現　状 ❹	課　題 ❹
耐用年数を経過した町営住宅が存在します。	老朽化への取組み方針を決め、廃止や長寿命化の取組みを進めなければいけません。

● 課題に対する今後の方向性

- 管理不全の空き家を発生させない又は減らす取組みを行い、利用可能な空き家については空き家バンクを活用し、地域活性化に繋げます。空き家の除却やリフォームに対し補助金を交付し、空き家所有者や活用者への支援を行います。また、町営住宅の適正な維持管理を行い、生活困窮者等に低廉な家賃で住居を供給します。

● 目標に対する状況を示す指数（KPI）

指　標	現　状	目　標(2030年)
空き家バンク物件 新規登録件数（５年間）	４件 （令和７年度）	２５件 （５年間）

Ⅲ 安　心

③ 生活基盤　1．道路の維持管理・整備

● SDGsとの主な関係性

● めざすべき姿

「継続的な道路維持」の考え方が重要とされる中、本町においては、明和町幹線道路網計画に基づき、道路ストックを有効に活用するため、施設の長寿命化を図り、予防保全を行い、継続的な道路維持に努めます。

● 施策における現状と課題

現　状 ❶	課　題 ❶
明和町が管理する町道路は、総延長約 430km に及びます。	近年の社会的現状、経済状況は大きく変化し、具体的には少子高齢化の進行、将来的な人口減少、財政の逼迫など、道路計画の前提となる条件に対応した整備が課題で、道路舗装維持管理計画に基づき、調査（路面性状調査など）を行い、計画的な維持管理を推進する必要があります。 また、確実な維持管理計画を実行することが必要ですが、補修予算の状況に応じ、路面の状態の変化をモニタリングしながら、柔軟な対応を実施することが課題です。

● 課題に対する今後の方向性

- 現在から将来への交通機能は、移動速度と将来交通量推計より、現在の幹線道路網計画で充足しているため、バイパス道路等の整備は行わず、既設道路の整備により充実を図るものとし、計画的な路面管理に努めます。
  ただし、局所的に交通阻害な部分などの、道路改良等は必要に応じ整備を検討いたします。
  また、明和町が管理する橋梁（240 橋）は、明和町橋梁点検要領に基づき、定期点検を５年に１回の頻度で実施します。

● 目標に対する状況を示す指数（KPI）

指　標	現　状	目　標（2030年）
ひび割れ率４０％以上の道路延長率	１．５％	１．５％

Ⅲ 安　心

③ 生活基盤　2. 土地の計画的な利用

● SDGsとの主な関係性

● めざすべき姿

誰もが住みたい・住み続けたいと思える快適な生活空間を確保し、安全性・経済性に優れた持続可能なまちづくりを実現するため、地域の特色を活かした土地利用を図るとともに、定住人口の確保につながる計画的な土地利用を進め、町並みと調和した良好な景観と住環境の形成を促進します。

町の玄関口の土地利用を進め、交流人口を増やし、町内外へ魅力発信や賑わいの創出を図ります。

災害に強く、住民の財産を守るための高精度な 16 条地図の備付けを推進することにより、土地利用の円滑化を図ります。

● 施策における現状と課題

現　状 ❶	課　題 ❶
国勢調査の人口動向によると、人口総数は平成 22 年をピークに減少傾向に転じています。 一方で、近年 30 ～ 40 代の子育て世代の転入等により増加傾向にあり、役場周辺等を中心に、住宅開発が進み戸建て住宅が増えています。 国道 23 号線南の下御糸地区付近は大型商業施設が集積しており、まちの玄関口としてふさわしい土地利用が求められています。	人口減少下における持続可能なまちづくりに向けて、集約型の都市構造を構築していく必要があります。 農村環境や集落内のコミュニティ維持、空き家の対策が課題となっています。 斎宮跡など歴史文化を伝えるまちづくりとそれを活かした景観形成が課題となっています。 災害に備えたまちづくり、円滑な行政事業施行、筆界トラブルの解消の為、16 条地図の備付の推進が求められています。

● 課題に対する今後の方向性

・令和５年５月に改訂した明和町都市計画マスタープランに基づき、住みたい・住み続けたい持続可能なまちづくりを目指して、令和８年に策定する明和町立地適正化計画による施設配置の適正化と緩やかな人口誘導を促すと共に、特定用途制限地域の見直しにより地域の特色を生かした有効かつ適切な土地利用を推進します。

・災害対策、行政事業の円滑化、筆界トラブルの解消を目的とし、地籍調査のほかに 19 条５項指定などの効率的な手法を活用し、高精度な 16 条地図の備付けを推進します。

● 目標に対する状況を示す指数（KPI）

指　標	現　状	目　標(2030年)
社会増減数 ※1/1 ～ 12/31	７９人増	７０人増
16 条地図備付完了面積 （年間増加面積）	１９０ha	１９２ha

Ⅲ 安　心

③ 生活基盤　3．公園の維持管理・整備

● SDGsとの主な関係性

● めざすべき姿

町有公園は、住民や地域の協力のもと維持管理に努め、史跡公園については、本町の自然・歴史環境に調和した公園づくりをめざします。

● 施策における現状と課題

現　状 ❶	課　題 ❶
公園は、県営の「大仏山公園」のほか、「みどり公園」、史跡公園等の都市公園を含む町有公園が１１７ヵ所あります。	自治会等への管理委託については、清掃・草刈り等の作業をおこなっていますが、自治会員の減少や高齢化に伴い、今後の管理について検討の必要があります。

● 課題に対する今後の方向性

・だれもが快適に公園利用できるよう、施設の維持管理と安全点検の徹底を図り、住民等の協力のもと、公園の管理に努め、自治会等への公園管理委託の維持を図ります。
　また、公園施設長寿命化計画に基づき、維持管理費の適正化に努めます。

・史跡公園斎宮跡では、県と町による『史跡斎宮跡整備基本構想』をはじめ、町による『史跡斎宮跡保存活用計画』、『明和町歴史的風致維持向上計画』に基づき、史跡整備や周辺環境の整備を行っていきます。来訪者の見学環境や周辺環境を整えることによって、まちの観光拠点としての体制を充実させていきます。
　また、町内全域の文化財・文化遺産を活用するために『明和町文化財保存活用地域計画』に基づき、周辺の環境整備も行っていきます。

● 目標に対する状況を示す指数（KPI）

指　標	現　状	目　標(2030年)
自治会等への公園管理委託数（累計）	７６件	７６件
史跡公園斎宮跡等の整備数（累計）	１５件	１６件

Ⅲ 安　心

③ 生活基盤　4. 上・下水道の維持管理・整備

● SDGsとの主な関係性

● めざすべき姿

安心して飲むことができる水道水を安定的に供給するため、配水管の耐震化整備や老朽施設の更新を計画的に実施します。

また、生活排水・し尿の適正処理により、公衆衛生の向上と公共用水域の水質保全を図るため、公共下水道事業・農業集落排水事業の推進と合併処理浄化槽の普及促進を進めます。

さらに、今後の上水道・下水道事業を安定的に持続するため、経営基盤の強化に努めます。

● 施策における現状と課題

現　状 ❶	課　題 ❶
上水道については、町内５カ所の水源地施設において耐震性配水池を設置済みですが、約 280km に及ぶ配水管の耐震化はほとんど進んでおらず、設置から 40年以上が経過する老朽管も約 26km 存在します。	管路耐震化・老朽管更新には長い年月と多額の費用を要することから、将来にわたって持続可能な水道事業を維持するためには、事業の広域化や給水区域の再編、料金体系の見直しなど経営健全化の取組が必要です。

現　状 ❷	課　題 ❷
生活排水については、下水道区域を縮小して、合併処理浄化槽区域に変更し、管理を町が行う「公共浄化槽」とすることとしました。	事業については、下水道整備が終了した後からとなるが、開始時期や計画年数など、財政状況を検証しながら検討していく必要があります。

現　状 ❸	課　題 ❸
下水道については、順次整備を進めており、令和９年度末に完了となります。	令和７年１０月に使用料金の改定を行いましたが、維持管理費の増加に伴う厳しい経営状況の下、今後の安定的な事業継続に向けた取組が必要です。

● 課題に対する今後の方向性

・町内に約 280ｋｍある配水管のうち、防災拠点等への配水管（重要管路）の耐震化を進めます。
また、設置から 40 年以上が経過する老朽管を順次更新します。

・将来にわたって水道事業経営を健全に持続するため、経営戦略に基づき事業の広域化や水道料金の適正化等の検討を行います。

・公共下水道の整備計画区域における供用開始区域拡大に向け、工事の進捗を図ります。
また、区域見直しにより下水道等整備計画区域外となる地域について、公共浄化槽を基本とした環境整備を推進します。

● 目標に対する状況を示す指数（KPI）

指　標	現　状	目　標(2030年)
上水道老朽管更新延長	２．９ｋｍ	７．４ｋｍ
公共下水道供用開始区域人口	5,462人	5,123人
生活排水処理人口普及率	78.8%	97.2%

Ⅲ 安　心

③ 生活基盤　5．公共交通の充実

● SDGsとの主な関係性

● めざすべき姿

住民の生活に必要な移動手段が確保され、買い物や通院等に困らない過ごしやすい町。

具体的には、町サービスとしては従来の町民バス（定時定路線バス）とデマンド交通を基本に、民間運行業者と連携・調整が充分に図られたサービスを継続して提供します。

● 施策における現状と課題

現　状 ❶	課　題 ❶
町民バスが各地区を網羅的に運行している。	停留所が多く１便の運行距離が長いため、目的地まで時間がかかることもある。 また１日の運行便数が限られる。

現　状 ❷	課　題 ❷
町民バスが４路線で１日４台運行している。	運行経費が高く費用対効果が低い。

現　状 ❸	課　題 ❸
チョイソコめいひめ（デマンド型交通）を運行している。	着実に会員数が伸びているが、そのため待ち時間がかかり、予約不成立となるケースもある。

現　状 ❹	課　題 ❹
町の公共交通は町内のみで運行している。	隣町へ行きたいという要望もある。

● 課題に対する今後の方向性

・明和町の公共交通について、官公のバランスが取れた再編を目指します。

・町民バスについて、ルート効率化を踏まえた路線の再編を実施します。

・チョイソコめいひめについて、適正台数の検討及び確保を実施します。

・隣接自治会との広域連携について検討します。

● 目標に対する状況を示す指数（KPI）

指　標	現　状	目　標（2030年）
町民バス運行経費抑制	9,600万円（予算）	5,000万円
チョイソコ会員数	1,200名	2,000名